

Laney
POWER TO THE MUSIC

LANEY IRT-Studio

取扱説明書



株式会社 サウンドハウス
〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3
TEL:0476(89)1111 FAX:0476(89)2222
<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

はじめに

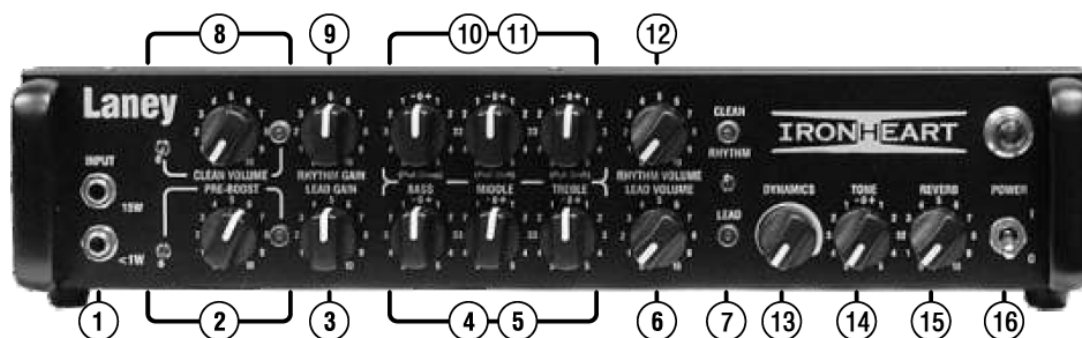
この度は Laney 商品をお買い求め頂きありがとうございます。Laney が開発し製作した商品はあらゆるディテールにこだわり、丹精込めて作り上げています。末永く楽しんでいただけることと信じています。Laney の歴史を振り返ると、Lyndon Laney が幼い頃、自宅のガレージで真空管アンプを開発していた 1967 年までさかのぼることになります。そして現在に至るまで、ギター、ベースを始め、PA 機器、キーボードアンプ等、様々な分野での商品をエンドーサーである世界的に有名な数々のミュージシャンとともに開発し、成長を重ねてきました。もちろん、我々 Laney 商品が世界に注目されるようになったきっかけでもある“ミュージシャン”が求める素晴らしいサウンドであることを最優先に開発を続けています。

IRONHEART について

ブラック・カンントリーと呼ばれるイギリス中部の大工業地帯、メタルギター・サウンドの発祥地とも言われるこの土地で 1 つ 1 つ大事に作られるのが、IRONHEART シリーズ・ギターアンプヘッドです。以前のモデル KLIPP、AOR の伝統をしっかりと継承しています。IRT-Studio は電源が入り準備が整うと、それを知らせるべく本体内部が赤く光ります。パワフルなサウンドを、より多彩に広い用途で、スタジオでも使用できるようデザインされています。シャーシはスチール製で頑丈にできており、2U のラックにマウント出来るコンパクトサイズとなっています。USB2.0 接続により、ほぼ全てのレコーディング・ソフトウェアと接続ができ、必要に応じてリアンプも可能です。ラウドスピーカーを使用できない時でもダミー・ロードが接続されているので、静かにレコーディングを行う事もできます。

各部の名称と働き

前面パネル



1. **15W INPUT** : モノラルジャックインプット。フルサイズの出力を得ることができます。
<1W INPUT : モノラルジャックインプット。アウトプットが 1W 以下の出力となります。
※2つのインプットを同時に使うことはできません。

2. **PRE-BOOST SWITCH** : インプット・ブースト・サーキットの ON/OFF を切り替えます。
Pre-Boost サーキットでインプット信号をブーストさせることによりディストーションが得られます。これは、全てのチャンネルで可能です。
PRE-BOOST CONTROL : ブーストのレベルを調整します。
PRE-BOOST LED : Pre-Boost コントロールが起動しているときに LED が点灯します。

3. **LEAD GAIN** : リードチャンネルのディストーションレベルを調整します。自然なオーバードライブからメタル系の歪みまで幅広いサウンドが得られます。適切なボリュームとディストーションレベルになるよう Lead Volume Control (6) と組み合わせて調整してください。

4. **LEAD EQ CONTROLS** : 伝統的なパッシブトーンコントロールです。これらのつまみを 0 から設定・調整することを推奨します。

5. LEAD EQ PULL SWITCHES : それぞれの EQ コントロール・ノブを手前に引き上げるにより、以下の効果が得られます。

Bass:Deep-低域の周波数応答特性を拡大し、よりヘビーなローサウンドを実現します。

Mid:Shift-よりタイトなサウンドにするように、Mid コントロールの周波数を下げます。

Treble:Shift-高域の周波数応答特性を広げ、丸みを帯びたサウンドにします。シングルコイルピックアップなどに有効です。

6. LEAD VOLUME : リードチャンネルの音量を調節します。Drive コントロールと Volume コントロールの組み合わせにより、バリエーション豊かなサウンドを作ることができます。例えば、Volume コントロールを上げて Drive コントロールを下げれば、温かみのあるオーバードライブサウンドが得られます。逆に、Drive コントロールを上げて Volume コントロールを下げれば、よりタイトでモダンなディストーションがかかったサウンドになります。

7. CHANNELSWITCH & LED : Lead と Clean/Rhythm チャンネルを切り替えます。選択したチャンネルの LED が点灯します。

8. CLEAN/RHYTHM SWITCH & LED: リズムチャンネルにおけるクリーンモードを起動させます。Rhythm Gain^⑨、Rhythm Volume^⑫が回路から切り離され、この CLEAN/RHYTHM スイッチが ON になっているときは、Clean Volume コントロールが起動します。クリーンモードが起動しているかどうかは、LED が点灯したことにより確認出来ます。

CLEAN VOLUME : クリーンモード使用時にアンプの音量を調整します。

9. RHYTHM GAIN : Lead Gain ^③に同じ

10. CLEAN/RHYTHM EQ CONTROLS : Lead EQ Controls ^④に同じ

11. CLEAN/RHYTHM EQ PULL SWITCHES : Lead EQ Pull Switches ^⑤に同じ

12. RHYTHM VOLUME : Lead Volume ^⑥に同じ

13. DYNAMICS : 低音域でのレスポンスを調整します。低めのセッティングで、タイトなレスポンスを得られ、時計回りにコントロールを回せば、緩めの（もっとルーズな感じの）ローエンドに仕上がります。最高のセッティングは、使用しているスピーカーキャビネットとボリュームレベル次第ということになります。

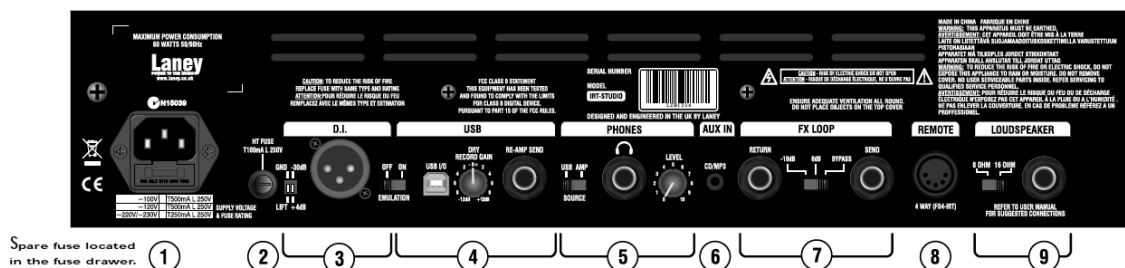
14. TONE : このトーン・コントロールは、アンプ回路の最終段階で独自に働き、ギターのとーン・コントロールと同じような働きをします。全体としてのトップ・エンド・レスポンスをコントロールするだけでなく、高域の倍音成分とプリアンプによるオーバードライブサウンドを調整します。この事により、ハイ・セッティングにおいては明るいカッティング・サウンドを、ロー・セッティングにおいてはスムーズで丸みを帯びたサウンドを実現します。調整のスタート地点としては、センターポジション (0) が最適です。

15. REVERB : Laney が自社でデザインを手がけた、内蔵のデジタル・リバーブのレベルをコントロールします。

16. POWER SWITCH : 本体の電源を入/切します。通常、スイッチを入れてから、本体がウォームアップし実際に演奏する準備が整うまで、30 秒~2 分程度かかります。電源を入れるには、スイッチを” 1 ” の方（上）へ押し上げてください。

POWER LAMP : 上部 POWER SWITCH の電源が入っているとき、このランプが点灯します。

背面パネル



1. MAINS INLET SOCKET-MAINS FUSE: この機器にはメインのセーフティー・ヒューズがあります。このヒューズはメインの電源が接触不良などを起こした際に、ダメージを受けないよう保護する役割があります。

2. HT FUSE: 誤ってアンプ内の真空管に高いボルト数の DC パワーが流れることを防ぎます。ヒューズの交換—パネルに記載と同じサイズ・同じ規格のヒューズのみ使用してください。誤ったサイズのヒューズを使用すると、アンプに致命的なダメージを与え、火災の原因にもなります。ヒューズは機材を保護するためのものです。規定のものを正しく使用するようにしてください。

3. DI アウト: PA システムまたはレコーディング機器を接続する際にこのソケットを使用します。スイッチ切替え可能なスピーカー・エミュレーションを搭載し、「ギター」—「アンプ」—「スピーカーシステム」をより正確に再現することができます。ソケットにはバランスアウトプットを装備し、(スイッチで切替え可能な+4dB/-30dB & Ground Lift) 最大限ノイズを除去します。スピーカーソケット (9) が使用されていない際に保護する抵抗があるため、スピーカーを接続せずにレコーディングを行うことが可能です。

※パワーモニターに接続する際、+4dB に設定してください。ノイズ、またはミキシング・インプットのオーバーロードを回避するためには、-30dB に設定することをお勧めします。

4. USB I/O : レコード・リプレイ・コネクター (レフト・チャンネル側にドライ信号、ライト・チャンネル側にウェット信号)

USB2.0 で接続可能な機種 : Windows XP/Windows7/Windows8、Mac、

iPad1、2、3 (camera USB adapter 経由)、

iPad4/iPad mini (Lighting-USB camera adapter 経由)

・ ±12dB のゲインで、ドライ信号を録音レベルに合わせて調整してください。

・ USB からのドライ・リターン信号は、RE-AMP SEND と前面パネルの INPUT をケーブルで接続し、出力することができます。

5. PHONES: ヘッドホンを用いて練習したい、または DI アウトをモニタリングしたい場合、このステレオ端子を使用してください。この端子は、DI アウトと似たようなエミュレーション回路を持っています。ヘッドホンを使用する際、まずはレベルが最低値に設定されている事を確認し、それから適当なレベルの位置まで上げてください。ソース・スイッチにより、USB またはアンプのモニタリングを行う事ができます。

6. AUX IN : CD または MP3 プレイヤーをオケとして接続する際、3.5mm ミニステレオ端子を接続します。CD/MP3 プレーヤー上のボリュームコントロールを用いてインプット・レベルを調整してください。このインプット信号は DI とヘッドホン端子に送られます、FX センド端子には送られません。

7. FX RETURN : 外部エフェクト接続時に、外部エフェクトのアウトプットからのモノラルフォンプラグをさしこみます。この端子は、パワーアンプ用のスレーブとしても使う事ができます。

FX LOOP SWITCH : エフェクトループ・モードを選択します

・ -10dBu : -10dBu のアウトプットレベルのエフェクターとの接続に。低い値のアウトプットレベルを持った装置に適しているため、このスイッチは 10dB まで FX ループのゲインを増加させます。

・ 0dBu : 0dBu のアウトプットレベルのエフェクターの接続に。

・ Bypass : 外部エフェクトを使用しないよう FX LOOP 回路から信号をバイパスさせます。

FX SEND : 外部エフェクトを接続したい時に、外部エフェクトのインプットへ信号出力するモノラルフォンプラグをさしこみます。

8. FOOTSWITCH SOCKET : 5 ピン DIN ケーブルを使用し、FS4-IRT をここに接続します。これにより、以下内容の遠隔操作が可能となります

- ・ チャンネル、クリーン、リバーブ、ブースト

※これらの操作を正しく行うために、プリ・ブーストとクリーンを ON に、チャンネルをリードに設定してください。

9. LOUDSPEAKER CONNECTIONS:ここからキャビネットを接続します。キャビネットに対してインピーダンスのスイッチが正しく設定されている事を確認してください。インピーダンスが正しくないと、アンプの性能を最大限に発揮できないだけでなく、機材に損傷を与えてしまう場合があります。ラウドスピーカーを接続せず、ヘッドホン等を使用してレコーディングする事も可能です。ラウドスピーカー・ソケットが使用されてなく、インターナル・ロードが働いている時は、アウトプットのトランスフォーマーを保護し、スピーカーでローディングした際のエフェクトをエミュレートします。もしキャビネットを使用しない場合は、スピーカーケーブルがアンプと接続されていない事を確認してください。

IRT Studio USB “Re-Amping”

レコーディングを行うために、まずは USB ケーブルを接続します。

次にギターケーブルをリアパネルの“Re-Amp”アウトプットジャックから前面パネルのインプットジャックへ接続します。

※電源トランスからハムノイズを拾わないために、電源ユニットの反対側からケーブルを繋ぐことをお勧めします。

ラックマウンティングについて

付属のラックマウントキットを使用し、19 インチラック、2U サイズマウントできます。ラックマウントの際は適度な冷却が行われるようアンプの上下には 1U ずつのスペースを確保することをお勧めします。

故障かなと思ったら

故障かなと思ったらまず次の項目をチェックしてみてください。書かれている通りに対処しても症状が改善されないときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

- ・ 前面/背面パネルや換気口が熱を持っている。……本機の使用中は、真空管の発する熱によって前面/背面パネルや換気口が熱を持ちます。故障ではありません。
- ・ 電源プラグは正しく接続されており、POWER スイッチもオンになっているが、電源インジケータが点灯しない。……ヒューズが切れている可能性があります。お買い上げの販売店にご相談ください。
- ・ コントロール類が効かない。徐々にパワーが落ちる。……真空管の劣化または破損の可能性があります。お買い上げの販売店に御相談してください。

修理について

故障かなと思われる症状が出た時には、この取扱説明書をもう一度よくお読みになり、接続や操作などを御確認下さい。それでも改善されないときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。調整、修理致します。

真空管の交換について

真空管は消耗品で、仕様戸とももに性能が劣化します。劣化の進行度合いは、使用環境により大きく異なりますが、劣化そのものを避けることは出来ません。真空管の交換には専門的な技術が必要です。交換はお買い上げの販売店に御依頼ください。真空管の交換は保証期間内でも、保証の対象外となります。

保証書

ご使用中に万一故障した場合、本保証書に記載された保証規定により無償修理申し上げます。

お買い上げ日より1年間有効

■保証規定

保証期間内において、取扱説明書・本体ラベルなどの注意書きに基づき正常な使用方法で万一発生した故障については、無料で修理致します。保証期間内かどうかは、サウンドハウスからのご購入履歴により確認を行います。保証期間は通常ご購入日より1年ですが、商品によって異なる場合があります。但し、保証期間内でも、下記のいずれかに該当する場合は、本保証規定の対象外として、有償の修理と致します。

1. お取り扱い方法が不適當（例：ボイスコイル焼けなどの故障等）なために生じた故障の場合
2. サウンドハウス及びサウンドハウス指定のメーカーや代理店が提供するサービス店以外で修理された場合
3. お客様自身が行った調整や修理作業が原因となる故障および損傷。もしくは、製品に対して何らかの改造が加えられた場合
4. 天災（火災、塩害、ガス害、地震、落雷、及び風水害等）による故障及び損傷の場合
5. 製品に何らかの理由で異物が付着、もしくは流入したことによる故障及び損傷とみなされた場合
6. 落下など、外部から衝撃を受けたことによる故障及び損傷とみなされた場合
7. 異常電圧や指定外仕様の電源を使用したことによる故障及び損傷とみなされた場合（例：発電機などの使用による異常電圧変動等）
8. 消耗部品（電池、電球、ヒューズ、真空管、ベルト、各種パーツ、ギター弦等）の交換が必要な場合
9. 通常のメンテナンスが必要とみなされた場合（例：スモークマシン等の目詰まり、内部清掃、ケーブル交換等）
10. その他、メーカーや代理店の判断により保証外とみなされた場合

●運送費用

通常、修理品の発送や持込等に要する費用は全てお客様のご負担となります。但し、事前に確認のとれた初期不良ならびに保証範囲内での修理の場合は、弊社指定の運送会社に限り着払いにて受け付けます。その際、下記RA番号が必要となります。沖縄などの離島の場合、着払いでの受付は行っておりませんので、送料はお客様のご負担にて、どこの運送会社からでも結構ですので発送願います。

●RA番号（返品承認番号）

サウンドハウス宛に商品を送る際は、いかなる場合でもサポート担当より通知されるRA番号を必要とします。また、初期不良または保証期間内の修理における着払いでの運送についても、RA番号が必要です。ご返送される場合は、必ずRA番号を送り状に明記してください。RA番号が無いものについては、着払いは一切お受けできませんのでご了承ください（お客様のご負担の場合はどの便でも結構です）。

●注意事項

サウンドハウス保証は日本国内のみにおいて有効です。また、いかなる場合においても商品の仕様、及び故障から生じる周辺機器の損害、事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、又はその他の金銭的損失等の損害に関して、サウンドハウスは一切の責任を負いません。

加えて、交換や修理等には当初の予定よりも時間を要することがありますが、遅延に関連する損害についても一切の責任を負いません。また、原則として代替機は、ご用意しておりませんのであらかじめご了承ください。